

軟式野球におけるチャンスに強い選手・弱い選手

Strong players and weak players the chance to Rubber ball baseball

1K08A115-3 柴崎 元

指導教員 主査 山崎 勝男先生 副査 宮内 考知先生

【はじめに】

私は、中学で軟式野球をはじめ、現在までずっとプレーしてきた。軟式野球は硬式野球と比べ、詳しくは知られていないが、軟式野球は得点の入りにくいスポーツである。そのため、チャンスの場面での打席には大きなプレッシャーがかかる。その中で、私は練習ではヒットを多く打つものの、試合になると全く打てなくなってしまう選手や、反対に練習よりも試合でヒットを打つ選手がいること、チャンスでこそ信頼できる選手がいることを不思議に思っていた。チャンス場面での強さは野球ゲームにおいて、「チャンス○」や「チャンス×」といった特徴が作られるほど馴染みがあり、重視されているものである。

そこで、スポーツ心理学で学んだ知識を活かしこの疑問を解決ようと考え卒業研究のテーマを「軟式野球におけるチャンスに強い選手・弱い選手」に設定した。そして、チャンスに強い選手は明るく、外交的な性格である。精神のコントロールがうまい。動作に安定性がある。という仮説を立て、内田クレペリン検査、DIPCA.3、Y-G 性格検査の3種類の質問紙を利用し検証していった。

【方法】

実験参加者は同じ軟式野球サークルに所属する大学2年生～4年生、19～22歳で野球経験者の健全な男性12名で、実験期間は、10月6日～10月24日である。実験参加者の2008年7月～12月、2010年5月～10月の期間において、軟式野球サークルの試合における打率、得点圏打率を算出し、得点圏打率が打率を上回った選手をチャンスに強いとしてA群に分類し、得点圏打率が打率を下回った選手をチャンスに弱いとし、B群に分類した。そして、内田クレペリン精神検査、DIPCA.3、Y-G 性格検査の3つの質問紙に、静かで集中できる場所において回答してもらった。そして、結果をA群とB群全体について、A群とB群に分類された実験参加者個人についてそれぞれ分析し、差異を検証した。

【結果】

内田クレペリン検査において、A群には動揺の欠如を示した実験参加者が5人見られた。一方、B群には1人しか見られなかった。また、B群には後期作業量の下落というA群には見られなかった特徴を示した実験参加者が2名いた。前期平均作業量、後期平均作業量、全平均作業量、後期上廻り率、動揺率においてはt検定の結果、有意差は見られなかった。

DIPCA.3において、競技意欲、精神の安定・集中、自信、作戦能力、協調性の心理的能力の因子ごとにt検定を行った。その結果、A群はB群に比べ自信が高いことがわかった。

Y-G 性格検査において、情緒安定性、社会適応性、活動性、衝動性、内省性、主導性の6つの因子においてt検定を行った。その結果、A群はB群に比べA系統値が低い傾向にあることがわかった。

【考察】

Y-G 性格検査において、A群はB群に比べA系統値が低い傾向にあることがわかった。A系統値は、偏りのない性格の度合いを示していることから、私はチャンス場面に強い選手はなにかしら偏った特徴を持っていると考えた。

また、グラフや図から視覚的に得られる特徴と、それを数値化したものでは必ずしも得られた特徴が一致するとは限らなかった。そこで、私は視覚的に得た情報の方が信頼できると考えた。このことから、新たに、実験参加者の人数が少ない場合、数値よりもグラフなど視覚的な情報の方が信頼できる。チャンス場面に強い選手はなにかしら偏った特徴を持っている。という仮説が立てられた。

さらに、本研究から確実にいえることは、A群はB群に比べて自信を持っているということであった。そこで具体的に自信をつける方法として、プラス思考を意識する、実際に成功体験をする、イメージトレーニングにより成功体験をする、堂々とした態度をとる、自分で目標を立て、達成する（自分に負けない）、という練習法を提案した。

